



平成 28 年 2 月 26 日
土地・建設産業局国際課
都市局総務課国際室

日本とシンガポールで TOD など、都市ソリューションについて議論 ～「日シンガポール都市開発ワークショップ」の開催結果～

国土交通省は、2月19日にシンガポールにおいて「日シンガポール都市開発ワークショップ（Japan-Singapore Joint Workshop on Urban Development）」を開催しました。

同ワークショップでは、公共交通と一体となった都市開発（TOD：Transit-Oriented-Development、公共交通指向型開発）や高齢化社会における都市ソリューション等の両国の都市開発分野の共通の課題について両国官民関係者間で活発な議論を行い、今後も継続して都市開発分野の意見交換を実施していくことについて合意しました。

本ワークショップは、日本とシンガポールの都市開発分野の共通の課題について、両国政府・企業が連携してソリューションを検討していくことを目的として開催したものです。

今後も、シンガポールとのインフラ分野における戦略的な連携を強化し、シンガポール及び東南アジア等の周辺国での我が国のインフラ関連企業の事業展開を支援していきます。

ワークショップの概要については以下のとおりです。

記

1. 日時 平成28年2月19日（金）14時～17時
2. 場所 シンガポール国都市再開発庁（URA）
3. 議題 ①公共交通と一体となった都市開発
②高齢化社会に対応したまちづくり
4. 参加（日本側：25名、シンガポール側：17名）
（日本側）

国土交通省大臣官房技術審議官（都市局） 清水喜代志

土地・建設産業局国際課建設産業海外ビジネス推進室長 乾有貴

在シンガポール日本国大使館公使 堤尚広 他

建設、不動産、設計、メーカー等の民間企業

(シンガポール側)

都市再開発庁副チーフプランナー ファン・シー・レン氏 他
陸上交通庁 (LTA)、国際企業庁 (IE Singapore)、民間企業

5. ワークショップ概要 (詳細は別紙参照)

- ・ シンガポール側より、車に依存しない都市開発の必要性について問題提起され、Car-lite (脱自動車) に向けた公共交通機関 (バス、MRT 等) の充実化・利便性の向上などの取組が紹介されるとともに、日本側からは、TOD と高齢化社会に対応したまちづくりに関する日本の政策、計画手法などについて紹介しました。
- ・ プレゼンを踏まえ、シンガポール側からは、日本の都市開発の経験において一極集中と都市混雑を緩和させるための政策手法 (規制、税制等) などについて関心が示されるとともに、日本側からは、シンガポール政府が Car-lite 政策に取り組む背景や基本的考え方に関心が示され、活発な質疑応答を行いました。
- ・ ワークショップを総括して、日シンガポール双方より、両国が抱える都市開発に関する共通の課題と対応について一定の理解が深められたことを評価し、今後も継続して日シンガポールの政府・企業間で意見交換を実施していくことについて合意しました。

<ワークショップの様子>



<問い合わせ先>

国土交通省

土地・建設産業局国際課 乾、川嶋 (内線 30702, 30723、直通 : 03-5253-8280)

都市局総務課国際室 澤田 (内線 32114、直通 : 03-5253-8955)

代表 : 03-5253-8111

「日シンガポール都市開発ワークショップ」概要

(1) 議題

- ① 公共交通と一体となった都市開発
- ② 高齢化社会に対応したまちづくり

(2) プレゼンテーション

シンガポール側：都市再開発庁、陸上交通庁

日本側：国土交通省、日建設計、三井不動産、日立製作所

(3) 議論概要

- ・ シンガポール側より、現在のCBD地区への都市機能集中や混雑の緩和を図るため、郊外に副都心を設けて機能を分散させるとともに、車に依存しない公共交通、徒歩、自転車利用を軸とした都市開発の必要性について説明があり、これに対する取組として、Car-lite（脱自動車）に向けた公共交通機関（バス、MRT等）の充実化・利便性の向上、徒歩や自転車利用を促す取組（歩行空間確保、自転車レーンの整備等）について示されました。
- ・ 日本側より、TOD（Transit-Oriented-Development，公共交通指向型開発）と高齢化社会に対応したまちづくりに関する日本の政策、計画手法と具体的な開発事例（渋谷、二子玉川、柏の葉キャンパス等）について紹介しました。
- ・ 両国からのプレゼンを踏まえ、質疑応答において、シンガポール側からは、日本の都市開発の経験において一極集中と都市混雑を緩和させるための政策手法（規制、税制等）や政府と民間の役割分担について関心が示された他、車への依存を低減させるための駐車場政策や、高齢化社会に対応した交通機能のあり方について議論が行われました。また、日本側からは、シンガポール政府がCar-lite政策に取り組む背景や基本的考え方に関心が示され、質疑応答が行われました。
- ・ ワークショップを総括して、日シンガポール双方より、両国が抱える都市開発に関する共通の課題と対応について一定の理解が深められたことを評価し、今後も継続して日シンガポールの政府・企業間で意見交換を実施していくことについて合意しました。

【ワークショップの様子】

